

安心院の“庭入り”

松岡謙一郎

大分県の旧豊前国にあたる宇佐郡一帯と、速見郡の一部に“庭入り”とか、“シカシカ”とか呼ばれているパンバ踊りの形態の盆行事がある。これは、傘ボコを中心に行列、盆踊りなどを行なうが、全国的にみてどのような位置をしめるか。又、私自身として、このようなカサボコを中心とした念仏踊りを見聞したのは、この大分県の他には、志摩の地帯でみたにすぎないので結論はさげたいと思うが、このような踊りが行なわれているのは、番場時衆の活動と、何らかの関連があると考えてさしつかえないであろう。このパンバ踊り、念仏踊りについては今後、研究を進めたいと思うが、その行事の内容についてここに報告してみたいと思う。その一覧表は〔図表1〕

まず、天間の例をみよう。

天間は世帯数五十七戸で、別府市の北西端に位置する山間部落である。天間の中でも三つの地区に人家は分かれており、天間地区は三十七戸で旧天領であり、天間正円寺（浄土真宗）門徒である。杵小野は九戸で旧日出領で速見郡山香町法照寺（真宗）門徒であり、小手吹は八戸で旧日出領であり、速見郡日出町西教寺（真宗）門徒で構成されている。

月遅れ盆の八月十三日に、この庭入り行事が行なわれるが、その順序は以下の通りである。

○八月十三日午後八時、正円寺集合

前行事、念仏あげ

○道中行列

図表 I バンパ踊一覧表

| 行事を行う場所 | 日 | 行時間 | 集会所での行事 | 庭入り行事 | | | | | | | 参加者 | 盆踊り | 最後に踊るもの | カサボコつくり | カサボコたおし | | |
|-------------|-------|------|-------------------------------|-------------|--------|-------------|-------------------------|--------------------------------------|--|--|---|--|--|-------------|--|--|--------------------------------|
| | | | | 道中行列 | 念仏 | 和讃 | サンガシラ | シカシカ | バンパ踊 | 参加者 | | | | | | | |
| 天間 (別府市) | 八月十三日 | 新益の家 | 庭借り(のあいさつ)に行く 新益の飯全部に青年団長 | 念仏あげ(庭入り行事) | 首寺(踊り) | 天間正門寺(淨土真宗) | いかに問いあわせ 行事を行なうか行なわな | 道中行列 ゴウチン チウウチン タイコ カサボコ | 念仏 ① ナームアミダ ② ナームアミダ ③ ナームアミダ | 和讃 ① ナームアミダ ② ナームアミダ ③ ナームアミダ | サンガシラ ① ナームアミダ ② ナームアミダ ③ ナームアミダ | シカシカ ① ナームアミダ ② ナームアミダ ③ ナームアミダ | バンパ踊 ① ナームアミダ ② ナームアミダ ③ ナームアミダ | 男子のみ | (3)シキダ (4)七つ拍子 (1)三つ拍子 (2)マツカセ 順序あり女子も参加 | 十四日 | 十四日 供養踊 カサボコつくり 十三日の朝来まり |
| 尾生津房 (安心院) | 同上 | 同上 | 庭入り(のあいさつ)に行く 十三日にまわるとき庭入り | 庭入り行事 | 首寺(踊り) | 正門寺(真宗) | いかに問いあわせ 行事を行なうか行なわな | 道中行列 ゴウチン チウウチン タイコ カサボコ | 念仏 ① ナームアミダ ② ナームアミダ ③ ナームアミダ | 和讃 ① ナームアミダ ② ナームアミダ ③ ナームアミダ | サンガシラ ① ナームアミダ ② ナームアミダ ③ ナームアミダ | シカシカ ① ナームアミダ ② ナームアミダ ③ ナームアミダ | バンパ踊 ① ナームアミダ ② ナームアミダ ③ ナームアミダ | 男・女(昔は男子のみ) | 女 白たぬび、あい色 男 黒たぬび、白地にカスリ | バンパ踊又は三つ拍子 三つ拍子 二つ拍子 マツカセ 順序なし、一般も参加 | 十四日 供養踊 |
| 大口田 (安心院) | 同上 | 同上 | 庭入り(のあいさつ)に行く 七日 | なし | なし | 新益の家の近所をかりる | いかに問いあわせ 行事を行なうか行なわな | 道中行列 ゴウチン チウウチン タイコ カサボコ | 念仏 ① ナームアミダ ② ナームアミダ ③ ナームアミダ | 和讃 ① ナームアミダ ② ナームアミダ ③ ナームアミダ | サンガシラ ① ナームアミダ ② ナームアミダ ③ ナームアミダ | シカシカ ① ナームアミダ ② ナームアミダ ③ ナームアミダ | バンパ踊 ① ナームアミダ ② ナームアミダ ③ ナームアミダ | 男・女 | 三つ拍子又は七つ拍子 マツカセ ケダシ 順序なし、一般も参加 | 十六日 | 同上 |
| 竹の口 (安心院) | 同上 | 同上 | 青年がききに行く | なし | なし | 一番最初の家に集まる | いかに問いあわせ 行事を行なうか行なわな | 道中行列 ゴウチン チウウチン タイコ カサボコ | 念仏 ① ナームアミダ ② ナームアミダ ③ ナームアミダ | 和讃 ① ナームアミダ ② ナームアミダ ③ ナームアミダ | サンガシラ ① ナームアミダ ② ナームアミダ ③ ナームアミダ | シカシカ ① ナームアミダ ② ナームアミダ ③ ナームアミダ | バンパ踊 ① ナームアミダ ② ナームアミダ ③ ナームアミダ | 男・女 | マツカセ | 十四日 | カサボコつくり 二三日まえ |
| 平ヶ倉 (安心院) | 同上 | 同上 | 青年が相談に行く | なし | なし | 同上 | いかに問いあわせ 行事を行なうか行なわな | 道中行列 ゴウチン チウウチン タイコ カサボコ | 念仏 ① ナームアミダ ② ナームアミダ ③ ナームアミダ | 和讃 ① ナームアミダ ② ナームアミダ ③ ナームアミダ | サンガシラ ① ナームアミダ ② ナームアミダ ③ ナームアミダ | シカシカ ① ナームアミダ ② ナームアミダ ③ ナームアミダ | バンパ踊 ① ナームアミダ ② ナームアミダ ③ ナームアミダ | 男のみ | 同上 | 十二日 | 同上 |
| 佐田房ヶ畑 (安心院) | 同上 | 同上 | 新益の家全部義務強制制 | なし | なし | カサボコを作った家 | いかに問いあわせ 行事を行なうか行なわな | 道中行列 ゴウチン チウウチン タイコ カサボコ | 念仏 ① ナームアミダ ② ナームアミダ ③ ナームアミダ | 和讃 ① ナームアミダ ② ナームアミダ ③ ナームアミダ | サンガシラ ① ナームアミダ ② ナームアミダ ③ ナームアミダ | シカシカ ① ナームアミダ ② ナームアミダ ③ ナームアミダ | バンパ踊 ① ナームアミダ ② ナームアミダ ③ ナームアミダ | 男のみ | マツカセ 三つ拍子 ケ出し 二つ拍子 レノ | 十六日 | 同上 |

○庭入り (1)念仏 (2)和讃 (3)サンガシラ (4)シカシカ (5)バンバ踊 以上の男子のみ参加

○盆踊り (1)三ツ拍子 (2)マツカセ (3)レン (4)七ツ拍子 (5)シキダ 以上女子も参加

○ケ出し (盆踊り) 男子のみ参加

まず正円寺に集合した庭入り参加者(青年団)は、カサボコ(カサボコ図参照)を中心に正円寺境内に整列し、住職が念仏をあげるとともに黙禱している。念仏がおわると、カサボコを中心にして初盆の家へと道中行列が始まる。その行列は、(若)チョウチン持ち一人 (タイコ)タイコ持二人タタキ手一人 (カサボコ)二人で持つ (笛)六人 (カネ)六人の順で進む。これら全員男に限られている。

こうして、初盆の家の庭(坪)に入り、二回まわって正面中央にカサボコを立てる。図表Ⅱのようになり、整列して庭入り行事が始まる。

まず(念仏申し)

(頭) ナームーアーミーダー

(全員) ナムーナムーアーミーダー

(タイコ) ドン

次に(和讃)頭が上の句を出し全員が下の句を流す。和讃は死んだ人の年令により六種類の和讃がある。

十才までの子供(児童和讃)

才の河原と 申せしは

砂場と冥土の 境いなり

一つや二つや 三つや四つ

十より内の 幼な子が

才の河原に 集まりて

もみじの様なる 手もちて

真砂ごを拾うて 塔をつむ

一丈つんでは 父のため

二丈つんでは 母のため

三丈つんでは 教師兄弟、我ためど

やがて日暮と なりぬれば

地獄の鬼が 現われて

つんだる塔を つきこわし

東にむいては 父恋し

西にむいては 母恋し

恋し恋しと 泣く声が

谷のおだまに ひびかれて

谷のおだまに 来てみれば

父という字が あらばこそ

母という字は 更になし

あらふしぎや

ここに又

地堂菩薩が

現われて

子供よ何を

悲しむか

我々父母

砂場にある

冥土の父母

我れどかし

一つ所に

呼び集め

衣の袖を

ふりきせて

げんによ あれよと 廻句する

未婚の男女には (花田和讃)

なぬか
七日七日が

なな なぬか
七・七日

四十九日に

あたる日が

明日は花田の

寺参り

寺の書縁に

腰をかけ

花園の花を

ながむれば

開きし花は

散りもせず

蕾の花の

散るを見て

さどや我が子も あのごとし

六十五才までの女性（六字和韻）

婦命頂礼 天竺の

びらしゃら川と 申せしは

水はなくして 船浮かず

船は白金 ろは黄金

六字名号を 帆にまいて

諸縁の諸仏が 乗り客で

地堂菩薩が 船頭して

西へ西へと 急がるる

六十五才までの男（善光寺和韻）

これより空の 天竺の

学界長者の 御建立

森屋の大臣 懇事して

あみだを池に 沈めたり

其の後本田の 義光が

池よりあみだを 守りあげ

昼は義光 守り申し

夜はあみだが 守りつつ

三夜三日と 言う内に

やがて信濃に 着きにけり

六十五才以上の女（都和讃）

そもそも都の かたわらに

類子と申せし 女人あり

女人の助かる 道はなし

みだの浄土に 願をかけ

助けたまえと 弥陀如来

六十五才以上の男（箱根和讃）

箱根のふもとの 夫婦石

一つの塔には ほととぎす

一つの塔の 其の上に

弥陀の三仏が 立ち給う

和讃が終ると次いで（サンガシラ）

（頭） ナームアーミーダーアー

（全員） ナームナムアーミーダー

五回くり返す

（タイコ） ドドソードン

次いで（シカシカ）青年団長又は役員が読む。一区切り一区切りに全員が「シカリー、シカリー」と、合槌をうつ。

東西、東西、御静りたまえ。誠に世はういづれ有為転変とは申せども、月にむら雲、花に風。花は根に帰し、鳥は古巢に帰れども、帰らぬは死出の旅。ここに何某○○○○長々御病気の処御養生御叶いなく。遂に御死去遊ばせられ。御親類様方の御なげきは浅からず。ここに盃蘭盆教の誦れあり。昔釈迦の御弟子目蓮尊者の御母公。永く病の床に卧し給い。千里の名医集まりて。医術を盡し給へ共。善婆羅門（善婆羅門）も及ばねば。遂に御死去遊ばせらる。前生の罪の深くして。阿鼻地獄に墜罪し給う。其時目蓮尊者は大きに御なげきかなしみ給い。何卒母のくるしみ救わんものをと。雨を車軸に降らされど。同じく火災と燃えたる。是れ我力及ばじと。御師匠釈迦の御元（御元）に寄り。何卒母のくるしみ助かる御法あるならば。教へ給へとありければ、如来答えて曰く。前世の罪の重ければ。汝が力の及ぶ所にあらず。高さ九尺に棚を架け。三界萬靈の位牌を供へ。教多の僧を呼び集め。百七日の御恩講を勧めなば。其功力にや地獄あがり致さん者をと。教え給はば其儘に。高さ九尺の棚を架け。三界萬靈の位牌を供へ。うづき中の五日より、文中の五日迄。一万部の法華供養とや。其功力にや地獄阿か里を遊ばされ。当月中の

五日とや。西方弥陀の浄土に御往生遊ばさせられ候。其時目蓮尊者大きに踊らせ給う。其学を效に当村老若男女集りて。パンバ踊を取組候。是れ伝来の遊びにあらず。歌ふも舞も法の道。見る人聞く人ともに蓮のはやすうな莖に遊ばんものとや。笛の歌に太鼓の音占め。三線の糸の音を調べ。

さ阿さ、おんどを始めたり始めたり

この『始めたり始めたり』で（パンバ踊）が始まる。拍子はタイコのみで、庭入りに参加し整列していた男子のみ輪をつくり、カサボコをとりまいて踊る。

踊り子が、『アラーエイエイ コラ パンバ踊りが始まるころよアーババもみていよ孫子をつれて』と、かけ声をかけ、口説が始まる。

（音頭取り） 宇佐に参るよりやお関に参れ

（全員） アーお関は作神サイサイ作が良い

（頭） 宇佐の石段百とは言えど

（全員） 百はござらぬヤレ九十九段

（頭） 宇佐のえの実は美事なものよ

（全員） えの実はならずにはヤレ葉がしげる。

二廻り位、踊り、庭入り行事、パンバ踊りが終る。

少し休み、初めて女子も加わり盆踊りに入る。盆踊りにも順番が決められているのはめずらしく、いまま少し、盆踊りにについても述べてみたいと思う。

まず、（三ツ拍子）であるが、これは段物で、おつや口説、奈須の与一、鈴木主水、四谷怪談などがある。そのかかり出しは、昔は『サンサ燈台オンソレ乍ら、しばし間は口説いてみましょ』で、始まったが、最近では、『汽車は出てゆく煙は残る。』

残る煙がヤレ、シャクの種、山は焼けて山鳥は立たぬ、たたぬ管だよ吾子を捨てて、吠いた桜になぜ駒つなぐ、駒も勇めば
が散る』である。

次いで(マツカセ)であり、一人で二曲位口説いて次々と交替、おばあさんなどがよい声で聞かせる。

『マカセ、ヨイヤナサ シバラクヤロカーマカシャ踊りで品が良い』で始め、適宜つくり歌、ある程度、ヒワイな歌もは
る。

後が出なくなると(レンソ)に入る。

『レンは良いかよ、レンどもやるか、コラサイノサ、レンはナイヨイシヨ 踊りよじや品がよい ヤレヤレンソーヤトヤン
レサー』

口説は適宜

例

- タンダ ダント流れる水は別府芸者の化粧の水
 - イヤジャ イヤジャと畑のイモが かぶりふりふり子ができた。
 - 姉と妹が揃いの浴衣 どれが姉やら妹やら
 - 梅と桜を両手でもちて どちらが梅やら桜やら
 - あゆは瀬に住む鳥は木の上に 人は情の下に住む
- 次いで(七ツ拍子)であるが、段物としては、おつや口説があり、即興ものもませる。
- 『おせ、おせ、七つも八つも サノヨイヨイおせばコラ都がヤレ近くなる』で始まる。
- 次いで(シキダ)

『シキダ通れば雨降りかかるよ、コリヤ かかるヨ 妻子が気にかかるヨ』後は即興口説。

ここで女性は輪から出て男のみとなる。そして（ケダシ）が始まる。

『サーサーコレカラ早い良からう、アラエッサエッサ ミンナなどもケダシておくれ ヤレヤレソー』、非にテンポが早く乱舞調となり、足をけだす。口説は適宜、即興物である。

ケ出しを終ると笛、太鼓で、道囃子、祇園囃子を各一回はやし、門口を作つて出て次の初盆の家に行く。

初盆の多い年は、十四日まで行う。

子供とか、家庭によつては、庭入り行事だけの場合もある。

もとは、初盆の家は、庭入り参加の男子を座敷に上げ、お膳になおらせ、直会に酒、料理を出して接待していた。女の踊り見物人には全員に夜食としてミソ漬をませたニギリ飯を二個宛出したが、現在は全員にニギリ飯程度を出している。又、ゲとしてもとは、口説手（大夫さんと呼ぶ）に、蛇の目傘、踊り子に手拭、見物人にウチワを出していたが、最近は全部、ハワ程度ですます。

以上、天間の例であり、他も大同小異であるが、次に宇佐郡安心院町大口田の例をみると、旧暦の七月七日、庭をかりにといつて、初盆の家に庭入りをやるか、やらぬかを聞きに行く。

十三日の朝、青年団が、初盆の家の近くの家でカサボコを作る。（図表Ⅲ参照）

村人達の盆悔みがすんでから、「今から庭入を始めますから」といい、（カサボコ）（チョウチン）二個大口田青年会に入り（リン、カラカサ）（カネ、フエ、タイコ）の順で庭に入り、二回半、庭を廻り、カサボコを踊りの中心となる、口きをやる人の台（六尺位）の横に立てる。他の人は、新仏の位牌の前に男二列、女二列の四列に整列する。位牌のうしろに女の親類縁者がならんで座る。

こうして、行事が始まるが、まず（和讃）をあげる。大人に対しては、ジドウ和讃、子供には、ハナド和讃をあげる。和讃区切り区切りでリンをふり、出しは一人で言い、後は皆で合唱する。ハナド和讃は、天間の花田和讃とほぼ同じであり、ジ

和讃は、次のようなものである。

ハヤハヤタノメヤ ジフのミダ

ニブツのアイダの マヨイゴハ

ホカニタヨラス カタモナヤ

トナウルミダヲノ シルベニテ

ナムアミダブ ナムアミダブツ ナムアミダ

次いで（シカシカ）シカシカを読む人にカラカサをさしかけ、両方にチョウチンをならべる。区切り区切りに太鼓とリン・ならし、読む人以外は腰をおろす。

内容は、天間と同じようなものであり、目蓮尊者の母が、パンバ踊りをうたったら、浮かばれた。というものであり最後に「サアサア若いしゆ、カサボコの下にたちよってフエヤカネ、太鼓、ミスジの糸のねをしらべ中にもおんどりよりはじめそらえ」で、庭入りの踊りになる。踊りは、三つ拍子か、七つ拍子である。

次いで盆踊りであるが、レソ、マツカセ、二つ拍子、ケ出しなどを順序なしに適宜踊り最後は、三つ拍子か、七つ拍子である。

全部の初盆の家を廻ると、東光寺跡（現公民館）に集まり盆踊りをして行事を終える。

十六日にカサボコヲオシをする。カサボコをくずし焼き、集まったお祝で、皆で飲食する。

次に津房尾立をみると、行事内容は、天間や大口田とほぼ同じであるが、昔は天間同様男のみの行事であったという伝承があり、村中を廻る順は、上の方からと下の方からが一年交代になっている特徴がある。また、天間同様、パンバ踊りを踊れはつきりパンバ踊の名がでてきている。

その他の例も、一覧表をみてもらえばわかると思うので内容についてはこれで終る。

いままでみてきたように、浄土教の教えを民衆に広めるにあたり、民間にあったと思われる季節の区切り区切りの行事に仏踊りをとり入れ、教えを広めていったと思われる。正月にも、簡単な、手をふり、足をふむというような行事が残っている例があり、盆の時期もそのようなものであったのだろうが、盆には盆踊りが、根をおろして現在の盆踊りが全国的に残っているものである。

時宗の一遍上人の生存中は時衆が、踊り念仏を通し民衆に大いに広めたが、一遍上人は、本山をもうけ教田組織を作るといふことをしなかつたので、その後、浄土真宗などにとつてかわられ、このバンバ踊りの行なわれている地も、浄土真宗の寺もとで現在は、バンバ踊りを行なうことになっていと思われ。

その時衆の活動、また、浄土真宗の進出（これは御座制度に関係あると思われる、屋号のオザ寺等。）について、今後研を進めたいと思つているので、より御指導を願いたいと思う。

（別府市鉄輪）

第五八号訂正

表紙（目次）の「大分県史料」補遺（一）の筆者、渡辺登夫氏は渡辺澄夫氏の誤りです。

頁「日本の風習に関する注意と警告書」について」の筆者溝口、脩氏は溝部、脩氏、同氏の勤務校、育英工業専門学校は育英工業高等専門学校の誤りでした。